

バプテスト（連盟）における仙台伝道の歩みと幻

●バプテスト連盟の東北伝道

日本バプテスト連盟は 1947 年に、戦前九州を中心に伝道していた 16 教会によって再結成され、米国南部バプテストの熱い支援のもとに「全日本にキリストの光を」の祈りを掲げ、その具体的な伝道戦略として全国の各都道府県の県庁所在地またはそれに代わる主要都市での開拓伝道に着手、東北でも宮城県仙台市における開拓伝道（1954 年）から始まって各地での伝道が始められ、教会が誕生して行きました。2010 年 3 月現在、東北地方連合は 15 教会、2 伝道所を数えます。小規模連合であり、厳しい自然環境と同様に伝道も目に見える成果を直ぐに見ることは困難ですが、連合では酒田市での開拓伝道に取り組み既に 10 年近くになります。苦闘してはいますが、福音の宣教そのものが私たちの希望であり、喜びではないでしょうか。

●仙台圏伝道における初期の二組の宣教師たち

仙台ではグラント宣教師夫妻によって 1954 年に現在地で幼稚園開設と同時に伝道が開始されました。同夫妻は仙台市北辺から更に約 10 キロ北の吉岡にも伝道所と幼稚園を開設しておられますが、仙台滞在 5 年ほどで文書伝道のために上京、仙台教会ではその後、牧師たちも何代か交替しました。この間、グラント師の後任として来仙、4 半世紀にわたって仙台圏を中心に東北伝道に従事したボートライト宣教師夫妻の働きは特筆されるべきでしょう。山形伝道にも力を尽くされましたが、同師を介して南光台に土地会堂が与えられて伝道が始まったこと、全国支援開拓伝道所としての現在の仙台北教会の伝道開始から日本人牧師と共に教会形成に携わり、連盟でも記録的な速さで教会組織に至ったこと、今も海を超えて親密な交わりが続けられていることなど、同夫妻の働きが仙台伝道と信徒たちの交わりに及ぼした影響は計り知れません。

●仙台バプテスト伝道協議会（SBD）

私が仙台教会牧師となった 1985 年はその前年に仙台北教会が、更にその 1 年前に南光教会が教会組織をし、仙台市に仙台教会を母教会とする三つの教会が誕生したばかりでした。人口百万人を超す東北地域の行政・文化の中心地である仙台は、著名な国公私立の大学・高校等多く擁していますが、プロテスタントの総合学園が三つ、カトリック系も三つあり、多くの人材を世に送り出しています。教会員にもこれらの学校の在校生や卒業生、教職員などの占める率は少なくなく、私の仙台教会牧師在任中はバプテスト系（北部バプテスト）の尚絅女学院関係者だけで全体の 25%、他のキリスト教学校を含めると 40%を越していました。同じ仙台教会を母胎とする三教会はこれらの学校も含めて協力伝道のためにこそ建てられ、招かれていると言っても間違いのないでしょう。そのような思いを共有して 1986 年に「仙台バプテスト伝道協議会（SBD）」が発足しました。

●仙台伝道における宣教師たちの働き

私の仙台教会初期にボートライト宣教師夫妻は引退され、ウッズ、ミラー、オデル宣教師夫妻らや、彼らの指導監督の下に短期宣教師たちも相次いで来仙し、形の上では仙台教会のミニストリーとして始められた「サーチライト」という青少年伝道プログラムや仙台教会の夕礼拝として始められた英語礼拝などを宣教師たちが担当し、三教会関係者ばかりでなく、他にも多くの人たちが参加、またこれらの宣

教師が学園キャンパスや自宅などで学生たちに積極的に接することで仙台教会は実に多くの人々で賑わいました。青年たちの劇が全国的な集会でも上演されたこともあり、1990年前後の仙台教会は間違いなく全国的にも青年活動が最も盛んな教会の一つでした。宣教団の伝道方策変更のため宣教師たちが仙台を引き上げざるを得なくなったことは実に残念です。

●大富バプテスト教会の誕生

仙台教会で学生伝道に携わっていたウッズ師は後進の宣教師にバトンをタッチして、仙台市内から郊外の団地「パルタウン大富」に移住、折から無牧師となっていた吉岡伝道所での伝道牧会に携わると同時に、団地での開拓伝道を志して仙台教会に母教会としての支援を訴えられました。しかし、仙台教会にとってその申し出は唐突であり、直ぐに応じることは困難でした。伝道の課題は余りにも多く、その選択や実行には多くの協議と祈りが必要でした。このような日本の教会の慎重な、しかし一面では煮え切らない態度に失望し、母教会を求めずに伝道所を開く宣教師たちもいましたが、ウッズ先生は辛抱強く、教会が一致した思いと祈りをもって大富での開拓伝道に取り組むことを期待して3年間、宣教師館での家庭集会を続けながら待ち続けました。一人の力ではなく、主の御名の下に呼び集められる人たちの協力によってこそ福音宣教の働きが進められるべきだと考えておられたのです。ウッズ夫妻の定期休暇が終わって仙台に戻ってくるその途上で令息トレーバが白血病を発症、遂に帰らない人となったその悲報は私たちをも打ちのめしましたが、同時に「仙台に戻りたい、教会の友達と一緒に伝道したい」というトレーバ、そしてウッズ夫妻の祈りと思いに心から同調させずにはおれませんでした。仙台教会を母教会として大富伝道所が発足したのは、その後間もない1992年10月のことです。仙台教会から家族も含めて12名の人たちが派遣され、翌年には会堂も建てられ、1999年6月に教会組織をして今日に及び、子どもたちの喚声に満ちた未来志向の元気な教会の姿を見せています。教会組織をした大富教会はその年に初の日本人牧師を迎え、5年後に新しい牧師と交代しましたが、昨年夏に辞任、次の牧師招聘のために現在準備中です。

●仙台圏のバプテスト教会の状況、ことに「吉岡」について

仙台教会は私の後、二人の牧師が交替、伝道50周年記念行事や新会堂の建築等も行われましたが、今年5月で山下先生は引退されます。また南光台教会では昨年、念願の新会堂が建ち上りました。井形先生は連盟理事や青少年アドバイザーとして活躍中です。仙台北教会は1980年に連盟の拠点開拓伝道所として発足以来、順調な成長を続けていましたが、牧師の交代や福音理解、ことに霊の賜物を巡る混乱で5年前に教会が分裂状態に陥りました。日本の教会の脆弱性や牧師のリーダーシップの問題も含めて教会が真のキリストの体となっていくための大きな試練の時でした。しかし、再建プログラムも軌道に乗り、現在は専任牧師招聘に向かって準備中です。

仙台地区の4教会以外に郊外の吉岡地域で50数年前に伝道所と幼稚園が開設されたことは前述の通りですが、初期の働き手を失った伝道所は仙台北教会が母教会として同地に立派な会堂・幼稚園舎を建て直した経緯はあるものの、人材不足や教会自体の混乱の中で閉鎖され、現在は幼稚園も休園を目前にしています。吉岡は仙台北教会から大富教会を挟んで北に約20キロ、距離的な問題も体力を損ねた教会にとって大きな重荷となったことは否定できません。現在、吉岡伝道をどのように再構築すべきか、仙台北教会のみならずSBDの課題として検討されようとしています。吉岡地区に最も近い大富教会としては自らの伝道圏として吉岡伝道の再開は他人事ではありません。大手の自動車産業が誘致され、

工業団地などの造成も進められて人口の急増も確実視されている今日、吉岡伝道は仙台圏伝道に大きな希望とチャレンジを与えてくれるものだと考えています。

●仙台圏伝道の幻と主の招き

仙台地区の4バプテスト教会のうち今年6月以降、3教会が専任牧師不在となるのは、ある意味では異常事態ですが、日本バプテスト連盟全体では、恒常的に10%に近い教会が無牧師の状態に置かれている反面、待機している牧師経験者や志望者も少なくありません。しかし、これらの事実を悲観的に見るべきではないでしょう。教会は今まさに産みの苦しみを経験しているのだと思います。試練の時は同時に希望の時です。主は何を私たちに示し、語りかけておられるのでしょうか。

私の心に今、「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に必要なさい」(マタイ 9:38)という主のお言葉が強く響いています。収穫は多いのです。教会のプログラムやキリスト教の集会は必ずしも多くの人を集めてはいません。仙台をホームタウンとするプロ野球やサッカーチームの試合に熱狂する人びとの興奮は教会には見られません。しかし、イエス様の目には神の国の福音を求めて御許に集まってくる人々が長蛇の列を作っている姿が映っていたに違いありません。福音を必要とする人びと、失われた人々は余りにも多いのです。100万人以上の人たちに福音を伝えるには、まだまだ多くの働き人が必要です。

私はまた、パウロがトロヤで見た「マケドニア州に渡ってきて、私たちに助けてください」(使徒言行録 16:9)という幻のことを思い起こしています。それはあの美しいフィリピ教会を生み出し、福音をヨーロッパに広げる契機となった幻であり、招きでした。「すべての造られた者」たちへの福音が文字通り実証されたキリスト教伝道史における記念すべき出来事でした。

「(仙台に渡ってきて)、私たちに助けてください」という声を主からの招きとして聞いて応じるのは、誰でしょうか。今、私たちは主から極めてスリリングなチャレンジをいただいているのではないのでしょうか。東北、中でも(吉岡を含む)仙台は本当に素敵な処です。日本のガリラヤです。イエス様の福音宣教はガリラヤから始まりました。そこで主は弟子たちを選び、招き、福音宣教へと遣わされました。東北はその意味で祝福されたところであり、伝道の好地です。仙台伝道について、ご一緒に思いをめぐらし、祈りのうちに主の招きを聴き、応えようではありませんか。

2010年3月20日

大富バプテスト教会協力牧師 金子純雄